

学校法人アナン学園

平成27年度 事業報告書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

1. 法人の概要

(1) 教育方針

【校訓】 感謝の気持ちを忘れず、相手の立場に立って考えられる、何事にも礼儀を守り、社会に貢献する人間の育成

【教育理念】

心の教育とは、「心の秩序」を教え育て確立することです。

人間は今の自分の心持ち次第で、已後の自分を創り変えることが出来ます。今、自分の物事に対する見方、考え方を換えれば、必ず已後の自分も変化します。「心の秩序」を確立すれば、自己の人間の質の向上と同時に他者の為に役立つ行為の出来る自分に変化します。

また、教育とは、教師が教えるだけでなく、教師が身を以て示す事こそ教育者・指導者の実践態度の要だと考えています。子供は親の云うことは聞かないが、親の真似はします。身を以て示すものこそ善知識であり、指導者、教育者、師匠の振る舞いです。

私達は、眼に見える物だけでは無く、目に見えない物の価値、「心の秩序」を見いだす教育、そして生徒が自己の最良の本質を体認しながら成熟していく場の実現を目指します。観念的な徳目や標語を羅列して弄ぶのではなく、形式的、儀式的、偽善的な教育でもなく、生徒それぞれの個性に改善と転換の可能性を確信し、同時に限界をも確認しながら生徒の資質に応じた教育を心がけます。異なる資質には、異なりに相応しい対応こそ、真の教育だと考えます。誠の心は必ず相手に通ずることを確信して現場に臨みます。

しかし、現実には、それほど安易ではありません。そこで教育者の自己の内的軌範に基づく努力が必要不可欠になります。内的自己の質の向上と、外的実践を通し、師弟共に自己実現に努力し、「心の秩序」を確立する教育の場でありたいと念願しております。

教（おしえ）と学（まなび）とは、不即不離の関係です。生徒の成長は教師の成長、教師の成長は生徒の成長に連動しています。共に成長し、共に進化する教育の場を目指します。

「幸いは心より出でて身を飾り、禍は口より出でて身を滅ぼす。

蔵の宝より身の宝勝れ、身の宝より心の宝第一なり。」

(2) 設置する学校

アナン学園高等学校

全日制課程 普通科

全日制課程 衛生看護科（5年制）

(3) 役員及び教職員等（平成27年5月1日現在）

①理事 7名（定員 7名）

監事 2名（定員 2名）

②評議員 15名（定員15名）、

③教職員等 91名（非常勤講師を含む）

④学校医等（学校医・歯科医・産業医・薬剤師）【委嘱】 4名

2. 学校運営の概要（アナン学園高等学校）

(1) 入学者の推移

単位：名

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
普通科	0（募集停止）	38	45
衛生看護科	37	37	45
計	37	75	90

※ 平成28年度入学者数は、普通科56名、衛生看護科63名の合計119名。

(2) 生徒の状況（平成27年5月1日現在）

単位：名

学年	普通科	衛生看護科
1	46	47
2	28	35
3	0	32
4		67
5		64
小計	74	245
合計	319	

(3) 卒業後の進路状況

①普通科

単位：名

27年度 卒業生	大学 進学者数	短大 進学者数	高専・ 専攻科	専修学校	各種学校 (含、予 備校)	就職・ その他
該当なし	—	—	—	—	—	—

②衛生看護科（専攻科）

27年度 卒業生	大学 進学者数	短大 進学者数	高専・ 専攻科	専修学校	各種学校 (含、予 備校)	就職・ その他
63	1	0	—	—	7	55

3. 平成27年度 財務状況

(1) 貸借対照表について

資産の部、固定資産および流動資産を合わせて、23億1,623万円、負債の部、固定負債および流動負債をあわせて、8,457万円。

また、純資産の部の基本金は合計73億4,794万円、繰越収支差額が▲51億1,628万円で、負債の部及び純資産の部の合計は、資産の部と同額23億1,623万円となる。

(2) 事業活動収支計算書について

【収入の部】

学生生徒等納付金収入1億8,674万円、手数料収入477万円、寄付金収入798万円、補助金収入1億9,204万円、付随事業収入731万円及び雑収入1,246万円となり、事業活動収入としては4億1,134万円となった。

【支出の部】

人件費支出は、3億2,292万円で、前年度に比し2,345万円減少した。これは教職員、特に事務職員数の減少によるものである。

教育研究経費支出は1億5,547万円で前年度に比し1,700万円減少、管理経費支出は7,982万円で前年度に比し1,376万円減少し、合計3,076万

円の減少となった。これは、昨年度より引き続き、教育現場における無駄な支出を省き、学内施設の点検作業の徹底及び修繕を行った結果としての成果である。

よって、事業活動支出としては5億7,257万円となり、今年度の支出超過額は1億6,123万円、翌年度繰越収支差額は、51億1,628万円となった。

(3) 資金収支計算書について

平成27年度 資金収支計算書 (H27.4.1 から H28.3.31 まで)

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	186,745	人件費支出	322,929
手数料収入	4,773	教育研究費支出	75,089
寄付金収入	7,411	管理経費支出	67,705
補助金収入	192,045	借入金等利息支出	0
資産運用収入	704	借入金等返済支出	0
事業収入	7,319	施設関係支出	8,347
雑収入	2,929	設備関係支出	2,904
前受金収入	23,968	資産運用支出	0
その他の収入	115,129	その他の支出	245,746
資金収入調整勘定	△16,068	資金支出調整勘定	△21,858
前年度繰越支払資金	553,080	次年度繰越支払資金	377,175
計	1,078,040	計	1,078,040

4. 事業の概要

(1) 法人名・校名の変更

創立以来の法人名及び校名について、平成27年10月1日付をもって下記のとおり変更した。

法人名	『学校法人樟蔭東学園』	⇒	『学校法人アナン学園』
校名	『樟蔭東高等学校』	⇒	『アナン学園高等学校』

新名称は、教職員、評議員及び役員から広く募集し、応募のあった名称の中から最終的に理事会において決定した。

新名称の『アナン』は、釈迦の十大弟子の一人である阿難（あなん、アー

ナンダ、阿難陀の音写略)に因んだものである。仏教を一言で表すと「智慧と慈悲の教え」と言われている。釈迦入滅後、その教えを後世に伝えるため膨大な経典が編纂されたが、阿難は釈迦の従弟であったためか、十大弟子の中でも最も永く釈迦の傍に仕え釈迦の説法を最も沢山聞いた(多聞第一)弟子として、経典編纂に大きな役割を果たした人物である。この遺徳にあやかる意味から『アナン』と選定した。

新校名の下、教育内容も頭書のとおり刷新した。従前の校訓、“謙譲・礼節”をより具体的に理解するため、“感謝の気持ちを忘れず、相手の立場に立って考えられる、何事にも礼儀を守り、社会に貢献する人間の育成”とし、教育理念を“心の教育”とした。

(2)「教員心得」・「生徒心得」の創設

教育理念とした“心の教育”を具現化するため、「教員心得」及び「生徒心得」を創設した。

【教員心得】

1. 率先して元気に明るく「あいさつ」をします。
2. 生徒のやる気を喚起するように心掛けます。
3. 生徒の気持ちを尊重した対応をします。
4. 決して驕らず生徒の模範として自覚ある行動を心掛けます。
5. 真心が生徒に通じるよう創意工夫し、学ぶ意欲を引き出します。
6. 教材研究と準備を完璧にし、生徒が楽しく理解できる授業をします。
7. 将来に夢を持たせ、自主性を育成させるような指導をします。
8. 信賞必罰をきちんと指導し、誉めることと叱ることを明確な尺度で対応します。
9. 叱るときは、その場ですぐに、誉めるときは、「やる気」をさらに喚起するよう大いに誉めます。
10. 生徒を信頼し、相手の立場に立って誠意をもって指導します。

【生徒心得】

1. 本校生徒としての自覚と責任を持って行動します。
2. 基本的な生活習慣をきちんと守り、節度ある学校生活を送ります。
3. 注意を受けた時は素直な気持ちですぐに改善します。
4. 夢・目標を早く持ち、それに向かって計画的な学習・行動をします。
5. 日々の予習復習は怠りません。
6. 授業は真剣に集中して聞きます。
7. 課題や宿題は、必ず期日までにやります。

8. 他人の人格を認め、自分と同等の権利を有することを認識します。
9. いじめや悩み事があった時は、すぐに担任・カウンセラーに相談します。
10. クラブ活動やスポーツ等で体と心を鍛え、豊かな学校生活を送ります。

上記の両心得については、朝礼時において、教員及び生徒がそれぞれ唱和している。

教員心得は、生徒の模範となるよう指導者としての基本的行動規範を謳い、生徒心得は、自信と誇りを持って高校生活を送るため、校訓をより具体化したものである。

教員は、教員心得に込められた一言一句の意味を理解し、教育者としての自覚と誇りを持って自ら率先して生徒指導にあたりるとともに、生徒に対しては、生徒心得の内容を理解・実践することがより良い高校生活を送るための糧であることを説くことにより、教育理念である“心の教育”の実現化を図る。

(3) 学園財政について

①平成27年度入学生について

平成27年度入学生については、普通科45名、衛生看護科45名の合計90名であった。目標としていた130名を大きく下回ることとなった。

②平成28年度入学生について

平成28年度入学生は、普通科56名、衛生看護科63名の合計119名となり前年度に比して微増した。

③経費の節減

平成28年度入学生について、前年度に比して微増したものの、目標達成とはならず財政的には未だ厳しい状況が継続することとなり、学園財政上、更なる経費節減が必要不可欠となった。

平成27年度決算における学園経費^{*注}は約4億6,581万円となり、前年比3,478万円の節減となった。加えて、平成28年度入学生についても上記の結果をふまえ、今年度末において更なる経費節減が必要不可欠であるとの認識に立ち、まずは、人件費の削減として事務職員6名のリストラと組織改変に伴う管理職手当の削減を行った。結果、事務職員の減少に伴う削減額は年間約2,400万円となり、平成28年度に臨む予定である。

*注 「学園経費」とは、事業活動収支計算書内、教育活動支出より減価償却額、徴収不能額等を差し引いた額。(平成26年度については、会計基準が異なるため、消費支出の部より資産処分差額、各種引当金繰入額を差し引いた額)

④入学生の増加に向けて

学園の財政状態を磐石にするためには、入学生を増加させる以外にその方法はない。

そこで、平成29年度から普通科に外部コーチとして元宝塚歌劇団のトップスターであった「鳳蘭」氏を招き、表現力と感性豊かな人間力を養う「ミュージカルコース」を創設する。

また、衛生看護科においては、3期目の卒業生を輩出することとなった。3期生となる今年度の正看護師の国家試験合格率は86%であった。因みに、平成26年度：80%、平成25年度：67%であり、合格率は着実に向上している状況に照らし、来年度は衛生看護科生の募集定員確保（80名）に努めたい。

(4) 生徒の進路について

平成27年度は、普通科に3年生が在学していなかった（平成25年度に普通科の募集を停止した）ため、普通科の進路は皆無であった。

一方の衛生看護科については、大学進学者が1名、各種学校へ7名、それ以外は病院等へ就職している。

因みに、衛生看護科専攻科2年生のうち、看護師免許を取得できなかった者も准看護師試験には合格し、受験者全員が看護師資格を取得することができた。

(5) クラブ活動について

現在、クラブ活動もしくは同好会として活動している団体は以下のとおり27あり、それぞれ活発な活動を展開している。

【文化部】

美術、エレクトーン、演劇、かるた、軽音楽、茶道、写真、調理、ボランティア、書道、吹奏楽、文芸、ガーデニング

【運動部】

剣道、硬式テニス、ソフトテニス、ダンス、バスケットボール、バレーボール、合気道、ゴルフ、サッカー、水泳、柔道、ラグビー（男子）、ラグビー（女子）、バドミントン（女子）

中でも、学園が強化クラブとして認定しているのは女子バドミントン部と女子ラグビー部である。

女子バドミントン部については、創部3年目にして全国大会出場まであと一歩（団体戦及び個人戦各準優勝）というところで惜敗している。しかし、年々、選手層も厚くなってきており、近い将来、全国大会出場の常連校となること、更には全国制覇も夢ではない。

一方、女子ラグビー部については、元日本代表の南條賢太氏を外部コーチとして招聘し、まずは全国大会出場を目指して頑張っている。

ここ、東大阪市は、市内に国際的に認定されたラグビー場を有し、そのラグビー場において全国高等学校ラグビーフットボール大会が開催され、古くから“ラグビーの街”として知られている。加えて、平成31年に日本で開催予定のラグビーワールドカップの試合会場として認定されたこともあり、既に人気スポーツとなっている。

本校においても、女子ラグビーに注力し、今年度は3名の部員であったが、平成28年度入学生は8名となり、来年度以降、合計11名の部員が全国大会出場を夢見て日夜練習に励むこととなる。

以上